

簡易版ティーチングポートフォリオ (2022 年度版)

2023/07/27

食物栄養学科 講師 本間維

教育の責任

筆者は、青森中央短期大学食物栄養学科に所属し、初年次教育と司書資格課程の科目を担当している。初年次教育では、レポートの書き方や資料の探し方などを講義形式で教えている。司書資格課程については、図書館の機能や法的な位置付けのほか、情報資源の整理と検索など、図書館以外も含めた情報流通の仕組みを教えている。

具体的な担当科目を以下に示す。

- 初年次教育
 - 1 年前期：アカデミックスキルズ入門、スタディスキルズ I
- 司書科目
 - 1 年前期：図書館概論
 - 1 年後期：情報サービス論、情報資源組織論、情報技術の仕組みと活用（教養科目）
 - 1 年後期・2 年前期：情報サービス演習、情報資源組織演習
 - 2 年前期：情報メディアの活用、情報資源の流通と管理（教養科目）
 - 2 年後期：図書館制度・経営論、図書館サービス概論
- その他
 - スタディスキルズ II、特別研究

科目以外の教育活動としては、食物栄養学科 1 年生のクラスアドバイザーとして、学生の受講状況の確認や、問題を抱えた学生の修学支援などを行っている。

教育の理念と目的

「様々な資料や情報を取り入れ、自分の考えと結び付けて活用できる学生」の育成を教育の目的としている。自身の意見を裏付ける情報を探ることができる学生や、得られた情報に応じて自身の考えを見直し改善できる学生を育てたい。

教育の方法

情報を活用する能力を身につけるためには、基礎的な知識の習得と、実際の情報検索・活用の場面を通じた経験の蓄積が必要と考えている。

[司書資格課程の講義科目]

対象： 図書館概論、情報サービス論、情報資源組織論、情報技術の仕組みと活用、情報資源の流通と管理、図書館制度・経営論、図書館サービス概論

知識の習得が中心となる講義科目については、スライドを用いた知識の伝達に加えて、反復的な学習機会の確保、実社会と関連付けた授業課題の設定を心がけている。反復的な学習機会としては、いずれの講義科目でも講義・小テスト・期末テストの3つで学習する機会を設けることに加え、授業内で振り返りのための問いかけを行うことで、重要なポイントに繰り返し触れるようにしている。実社会と関連付けた授業課題については、大学図書館や公共図書館のWebサイトを見たり、実際に館内の様子を確認したりした上で、そこにある課題の発見と解決策の提案を求める課題を設定している。

2年生後期に実施した「図書館サービス概論」では、任意の公共図書館を1つ選択させ、その図書館で導入すべき新規サービスを提案するという課題に取り組ませている。この科目では、授業の前半7・8回分で図書館サービスを概説し、残りの回で課題を段階的に進めている。作業の中で、授業の内容だけをもとにサービスの提案をするのではなく、既存の図書館サービスの調査や、選んだ公共図書館の特徴、その図書館を設置・運営する自治体の総合計画や教育計画などにも目を通し、自分たちが普段利用する図書館を多面的に捉えるよう促している。この課題では、同学期に開講している「図書館制度・経営論」で解説する、図書館の設置・運営に関する計画を図書館員がどう受け止めればよいかを、現実の課題に即して考えるものとしても位置付けている。

2年前期に実施した「情報資源の流通と管理」では、受講者に本学附属図書館の書架を見てもらい、資料の不十分な点の指摘と改善案の提示を課題として課した。他科目のレポート課題や卒業研究において、図書館の資料を活用せずに、Web上での検索のみで済ませてしまう学生は多い。この課題では、図書館の書架を実際に見てもらうことで、学生が他科目の課題と図書館とを結びつけて考える機会となることを期待している。また、学生からの提案を受けて、学生にとって不十分と感じている書架の問題点を附属図書館の資料収集に活かすことで、次年度以降の学生が調査学習をしやすい環境を整えていくこともできると考えている。

[司書資格課程の演習科目]

経験の蓄積を目的とする演習科目は、講義室ではなく附属図書館内で授業を行った。各科目では、練習問題集などを基にして、実際の図書館業務に即した演習課題を繰り返し実施することで、手法の定着を図った。課題に取り組ませた後は、正答を提示する前に、受講者同士で解答の確認や話し合いをする機会を設けた。これにより、「後で正答だけ聞けばいいや」という消極的な受講態度の解消を狙った。また、一人で行う演習課題は、受講者が自身にとって楽な目標を立ててしまいがちだが、受講者内での相対的な理解度を自覚させることで、お互いに目標を高められるようにしたいと考えた。

情報サービス演習では、各学生に利用者からの質問を想定した課題を与え、実際に図書館内にある資料で質問に回答するなどの演習を実施した。その際、館内資料だけでは回答不能な問題も含めることで、「明快な答えが見つかることばかりではない」、「部分的な回答しか見つからなくても、次の検索につながる手がかりとなる」といったことを伝えるようにした。

評価と成果

講義科目における反復学習について、情報サービス論と情報資源組織論の成績評価から成果を見る。2021年度は、小テストや中間試験で誤った回答をした設問に対して、よく準備をした上で期末試験に臨んだ学生が多かった。また、スライドのデータを配布したためか、期末試験に持ち込む授業ノートも、例年より細かい内容まで十分に網羅したものになっていた。ただし、スライドの内容をそのまま回答する問題以外では、ほとんど回答を記述できない学生もいた。このことから、問いかけの回答となりうる資料を用意することはできるが、その資料を基にして思考・論述することは不十分であったと言える。

科目横断的な課題について、各学生が提出した「図書館サービス概論」の学期末レポートを中心に、先述の教育方法の振り返りを行う。地元の公共図書館で導入すべきサービスの提案がレポート課題である。座席の移動が困難な教室で実施したため、一人で黙々と作業に取り組む時間が多くなり、授業中に学生間での口頭による情報共有は少なかった。一方、各学生が作成する期末レポートの途中経過を相互に共有できるシステムを用いることで、レポート作成にあたって気を配るべき箇所について、お互いの作業内容から気づきを得ていたように見える。また、個人で作業を進めることが多くなったため、提出されるレポートの内容が似すぎることがなく、幅広い意見が提出された。

今後の目標

- 短期目標
 - ディスカッションなどにより、資料を基に思考する機会を設ける
- 中期目標
 - 司書資格課程科目の開講順序や授業時間数を見直す
 - 実際の図書館や図書館員に触れる機会を設けるため、外部との関係づくりを模索する